日経メディカル

インフルエンザ診療Next：トピックス

流行拡大で脳症例が急増、38例に

インフルエンザ脳症で30代患者死亡、今季2例目

2018/1/19 インフルエンザ診療Next取材班

インフルエンザの流行拡大に伴って、昨年末以降、**インフルエンザ脳症**の患者が急増している。2017年の第50週に6例、51週に7例と推移、52週には10例、2018年第1週には9例と増加した。1週には、30歳代患者の死亡例も報告されている。報告時死亡例は今季2例目。

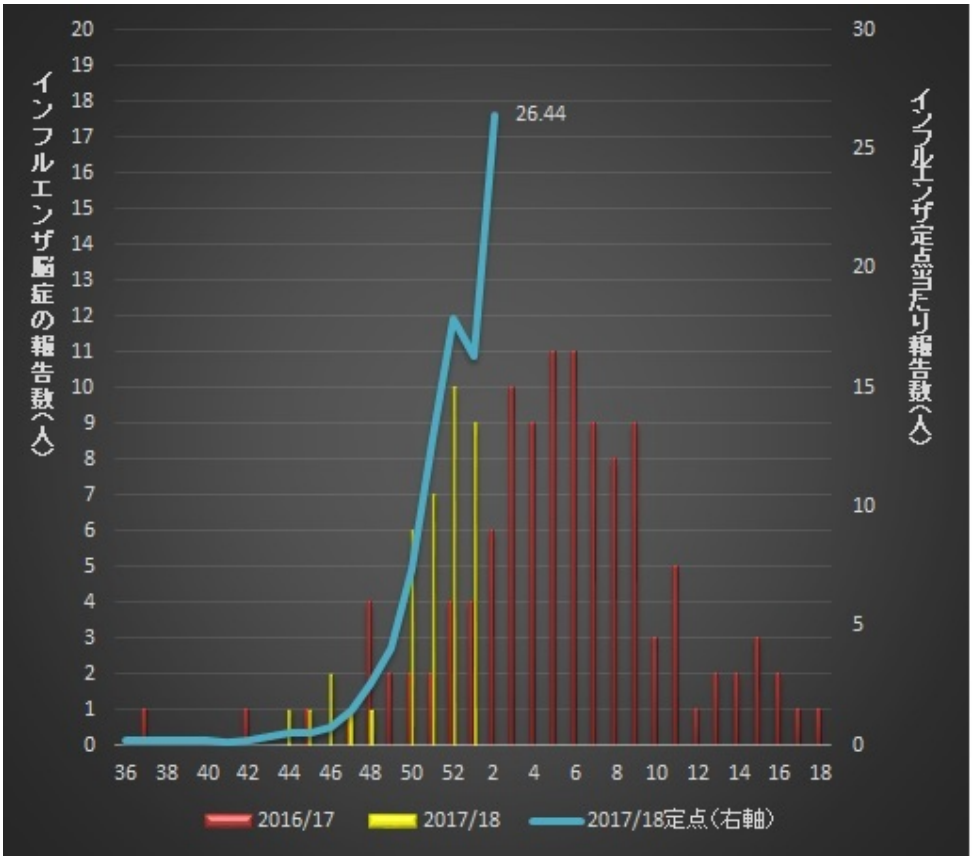

図1　インフルエンザ脳症例の推移

国立感染症研究所の感染症週報を基に、急性脳症の報告例を抽出し、インフルエンザウイルスが原因と明記されている症例を集計した。その結果、2018年1月7日ま

でにインフルエンザ脳症例は累計で38例だった。

38例の年齢分布を見ると、10歳以下が34例と大半を占めていた。1歳が10例と多く、10歳代が7例、7歳が5例と続いた（図2）。報告時死亡例も出ており、これまでに1歳児と30歳代の患者が死亡している。

ウイルス検出の結果は、A型が27例と多く、B型が4例だった。その他の7例は不明。

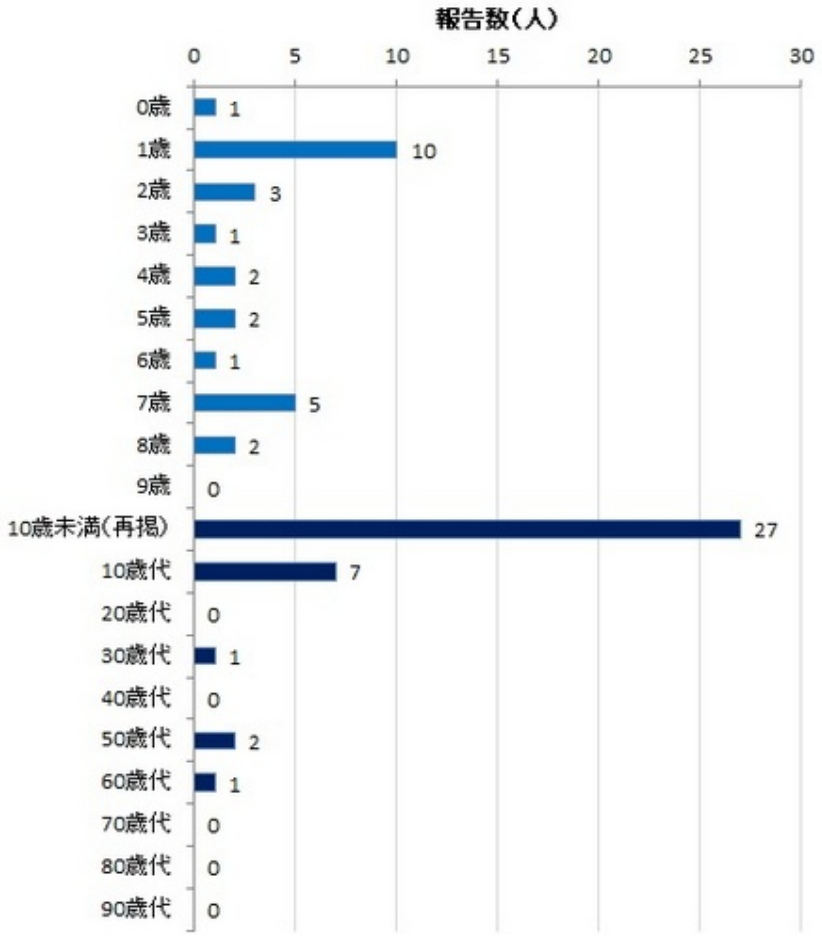

図2　インフルエンザ脳症の年齢別にみた患者数

全域で警報レベルの自治体が相次ぐ

都道府県がまとめているインフルエンザ定点当たり報告数（速報）によると、1月14日までの1週間で全国の定点医療機関を受診した患者数は定点当たり26.44人となり、前週の16.31人から増加した。

全域で警報レベルの定点30人を超えた自治体も、前週の4県から16県に拡大した。

最も多いのは宮崎県で52.83人、これに福岡県（42.26）、大分県（41.21）、鹿児島県（40.58）、沖縄県（40.23）、静岡県（39.76）、長崎県（37.97）、佐賀県（34.97）、熊本県（34.69）、鳥取県（33.28）、山梨県（32.56）、愛知県（32.41）、香川県（32.06）、高知県（31.73）、福井県（30.59）、茨城県（30.40）が続いている。

© 2006-2018 Nikkei Business Publications, Inc. All Rights Reserved.